

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2024~2025年度 No.298

10月報

那須クラブ会長 主題

ユースと共にミッションを



強調月間：ASF

今月の聖句 ヨハネによる福音書17：21

父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。…後略

10月第1例会（アジア学院の収穫感謝祭に参加）

日時：10月12日（土）午前9時集合・準備

10月13日（日）午前9時集合・準備

場所：アジア学院 那須塩原市槻沢442-1

アジア学院への奉仕は、那須ワイズの設立以来ずっと続けている。その中で1年に一度の収穫感謝の日の集い（チャリティーバザー）への参加も行っている。多くの方々よりご寄付をいただいたものを販売し、その収益金をアジア学院へ献金をしている。コロナの影響で、この2年間は、1日開催であったが、今年から、元に戻っての2日間開催となった。皆様のご協力をよろしく願います。

10月11日（金）午前9時30分より、田村会長宅で、寄贈品等の確認を行う。

2024~2025年度 主題

国際会長：(IP) A・シャナヴァスカーン (インド)

「より良い世界のために、共に」

アジア太平洋地域会長：(AP) ジョウン・ウォン (香港)

「大きなインパクトを起こそう」

東日本区理事：(RD) 山田 公平 (宇都宮)

「ワイズの方向性を見極める」

北東部長：大久保 知宏 (宇都宮)

「戦略2032を意識して」

クラブ役員

会長：田村 修也

副会長：村田 榮

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：塩澤 達俊

ブリテン：田村 修也・村田 榮

9月例会データ（出席率：71.4%）

メンバー4名、メネット2名、YMCAスタッフ1名、ユースリーダー10名、ゲスト4名、メーキャップ1名
在籍者 7名

10月 Happy Birthday

ありません

11月例会（西那須野地域での子ども食堂について）

日時：11月30日（土）午後6時～

場所：西那須野教会

12月第2例会（役員会）

日時：11月22日（金）午後4時30分～

場所：田村会長宅

北東部第1回評議会

日時：11月23日（土）

場所：宇都宮 トライ東&ZOOM

巻 頭 言

村田 榮

「つれづれなるままに」

昨年春に、メネットの母を天国に見送り、我々二人だけの生活になった。直後は、体調を崩していたメネットも、田村修也メン、田村暁美メネットや原田明子メンに支えられ少しずつ元気になりました。

12月24日のクリスマス礼拝に西那須野教会に行き、我々家族（長男、次男を含めて）の転会について潘牧師に相談をいたしました。

1月初めに日本キリスト教会姫路伝道所あてに、日本キリスト教会の退会と転籍のお願いをいたしました。1月28日の礼拝後、日本基督教団西那須野教会の臨時役員会で入会が許されました。その後、いろいろな方々とのお出逢いと交わりをしております。

西那須野教会地域割りで、那須塩原市北西部と那須町の教会員による、どんぐりの会のお誘いを受け早速2月から月1回のその会に参加しました。その会において、かねてよりお名前を存じ上げておりました、丹羽秀雄兄とお出逢いをいたしました。丹羽兄は、国際基督教大学の教授であり、東京YMCAの役員を長期間されておられた大先輩です。姫路YMCAのスタッフであったとお話をする、久しく、優しくお話をしてくださいました。本当に良い交わりが出来ました。感謝です。その丹羽兄は、5月に入院され、そのご様子は、潘牧師より聞き、早く回復をされることを祈っておりました。残念ながら、10月7日に召天されました。今は、神様のみもとで、地上での我々を見守って下さることでしょう。

那須ワイズの2024年—2025年度が始まるにあたって、河野順子前会長より、体調不良による退会の申し出があり、了解するしかありませんでした。そして、とちぎYMCAの業務変更、那須YMCAの活動の縮小。平山雄大担当主事から、塩澤達俊総主事が那須ワイズの担当主事として活躍をしていただくことになった。メンバーの高齢化によりユースリーダーとの交わりの部分が希薄になってきたように思います。新しいメンバーに参加をいただくためには、何をすればよいのかを模索しているところです。良いお知恵があればお教えいただきたいと思っております。



9月例会（ユースリーダーミッション）報告

日時：2024年9月16日（木）午後6時30分～

場所：西那須野教会

出席者：村田、藤生、原田、塩澤の各メン、田村、村田の各メネット、ゲスト：潘牧師ご夫妻、西那須野教会3名（古川、高久、他）、ユースリーダー10名、YMCAスタッフ1名

東日本区理事がスローガンに掲げる『ユースエンパワメントをYMCAと共に』を受けて、「ユースリーダーのミッション協議」をテーマに、那須YMCAユースボランティアリーダー10名をゲストに迎え、懇談会を行いました。3月例会「ユースリーダーと共においに食べておいに語ろう」に続く「ユースリーダーとの交流会・第2弾」となります。



リーダー10名に加え、ゲストに西那須野教会の方々やYMCAスタッフを迎え、ワイズメンバー



を含め、総勢22名の例会となりました。会場にお借りした西那須野教会1階ホールには前回（第1弾）同様に西那須野教会

の方々和ワイズの協力で豪華な手作り料理が用意され、西那須野教会潘牧師の食前の祈りによって食事会が始まりました。賑やかな中で、美味しく食事を頂きました。



食事が落ち着いた後、参加リーダーから自己紹介とYMCAへの思いを聞きました。

「色々なプログラムを行いたい」「参加したユースリーダーズフォーラムにていじめや不登校などをテーマに話し合いがあった。人との関わりが大切と感じたので、多くの人にYMCAキャンプに参加してほしい」「キャンプの参加費を下げたり、補助したりして、費用面で参加しやすくするのはどうか」「学校行事等にYMCAが派遣されてプログラムを行うのはどうか」「那須Yのリーダーが参加するプログラムの多くが宇都宮YMCAで行っている。そのためミーティングなどで宇都宮へ行くことが多く、時間や交通費の負担が大きい。那須YMCAでミーティングを行ったり、交通費の補助を行ったりしたらどうか」「那須YMCA単独プログラムがあれば（増えれ

ば）リーダーは参加しやすい」「新たな経験はリーダーや子どもたちにとって良い成長につながる。毎回同じ様な内容ではなく、新たな内容も行いたい」「田植えや稲刈りの活動はとても良い経験となった。自分で育て食べることはとても良いと思う。そのようなプログラムを行いたい」「リーダーが好きなこと・得意なことを子どもたちに教える・伝えるプログラムはどうか。リーダーも子どもたちも成長につながる」「ユースリーダーズフォーラムでの他YMCAリーダーとの交流は刺激になった。このような集まりを増やしてもらいたい」などなど。その他にも色々な思いを伝えあい、ユースリーダーとの未来について考える機会となりました。

那須YMCAの協力を得ながら『ユースリーダーとのプログラム実施』を目指して、話し合いは「ユースリーダーとの交流・第3弾」へ続いていきます。乞うご期待！

10月第2例会（役員会）報告

日時：9月25日（土）午後4時30分から

場所：田村会長宅

出席者：田村、村田各メン、田村、村田メネット協議事項

1. 9月例会について（反省）

10名のリーダーの参加があり、リーダーとの交わりが持てた。今後はどのようにつながり続けるかを感じた。

2. 10月例会について

10月12日（土）・13（日）のアジア学院の収穫感謝祭に参加する。シイタケ昆布、寄贈品の販売を行う。収益金をアジア学院に贈呈する。準備を12日（金）午前9時30分より、田村会長宅で行う。

3. 11月例会について

11月例会を、11月30日（土）午後6時より、西那須野教会にて行う。ユースリーダーと共に、「西那須野地域の子ども食堂について」のお話をお聞きする。ゲストスピーカーは西那須野教会役員の古川勢子さん。食事の準備は、西那須野教会の古川さんと高久さんをお願いをして、メンバーは、1品持ち寄りとする。

4. 東日本区サポートファンドについて

クラブとして、10,000円をする。

5. 能登半島豪雨緊急支援募金について

クラブとして、とちぎYMCAを通して20,000円を献金する。

6. 11月第2例会（役員会）について

11月22日（金）午後4時30分より田村会長宅で行う。内容は、11月例会・12月例会・1月

例会・2月例会についての打合せ。

6. その他

シイタケ昆布をアジア学院の収穫感謝祭に間に合うように仕入れる。その後、今年度最後の仕入れを行う。

三島開拓地での孤児教育事業—本郷定次郎の生涯— (12)

会長 田村 修也

これらの報道の如く暁星園を支援した三嶋弥太郎、タカダ耕安、海老名弾正。小林富次郎らの協力によって、角倉嵯峨子、伊藤藤吉の両氏に移譲して孤児養育事業は継続されることになった。そのとき園の借金は六百円余、園児十六名、園舎二棟あった。

このため財団法人組織の手続を済ませ、横浜孤児院は正式に発足したのである。一九〇〇年（明治三十三年）七月、理事に角倉嵯峨子、渡辺暢、（横浜地方裁判所長）、渡辺タツ子（同夫人）が就任し、同時に横浜市からも維持費の支給がなされるようになった。本郷定次郎の支援者であった小林富次郎（ライオン歯磨社長）はここでも高額寄附者の一人として名を連ねている。本郷の遺児はヒデの実家秋元家にい引きとられ女子の二人は良縁を得て長女愛は長崎へ、長男慰与男はライオン歯磨の社員となって、昭和五十一年四月に逝去、その子純一郎が父と同じライオン本社に勤務されている由（山野光雄「福祉社会の開拓者たち」）。小林富次郎は製品に慈善券を附して、これによって得た金額を慈善事業に寄附していた。那須野ヶ原における暁星園の生活は毎朝礼拝の後、各自クワを肩にして、農場に出て労作し、夜は学科の学習を怠らず、本郷定次郎は寸暇を利用して農業雑誌を読み、近所の農民に質問しながら開墾、農事に励んだことはすでに述べたとおりで、今は横浜市三春学園として、本郷夫妻の遺業は継承されている。これまで栃木県において本郷定次郎の業績について述べている人は明治時代に佐藤一誠、昭和十年代に大田原在任医師山田基、那須郡庶務課長河野鉄太（那須ワイズ会長河野順子氏の祖父に当たる方である）、最近では社会福祉研究家、元東京新聞論説委員山野光雄、広島女子大学教授田代国次郎で、このほかには「日本基督社会事業史」を執筆した生江孝之がいる。これらの諸氏に負うこと多きを謝してこの稿を了す。（西沢道夫）

今私の手許には、西沢道夫氏が逝去後、キミ夫人から拝領した本郷定次郎に関する資料がある。今日では蒐集が極めて困難と思われるもの、また唯一無二の原本等々があるので、紹介しておきたい。順不同である。

① 三嶋弥太郎の実弟弥六告別式金品の那須育児

暁星園への寄贈状

- ② 同上への本郷定次郎の感謝状
- ③ 本郷定次郎家族の戸籍謄本
- ④ 長男本郷慰与男家族の戸籍謄本
- ⑤ 写下野新聞明治27年9月19日版
育児暁星園と安澤村有志者
- ⑥ 同上明治32年5月24日版
那須育児暁星園主葬儀
- ⑦ 同上明治32年5月25日版
本郷定次郎氏を悼む
- ⑧ 写坂根義久著
青木周蔵の土地哲学と青木開墾
- ⑨ 写福祉のひろば 田代国次郎著
栃木福祉の源流を探る 荒野に蒔かれた一粒の麦—那須野孤児院暁星園—
- ⑩ 山野光雄著灯をかかげた人びと14回
=暁星園の創立者=本郷定次郎
- ⑪ 写蘆花全集青蘆集両毛の秋（四）塩原
- ⑫ 写上田みよ子作成
秋元・本郷・萩野関連年譜
- ⑬ 疏水の流れるまち にしなすの
- ⑭ 切り抜き 下野新聞昭和52年3月
平和塔
- ⑮ 写本郷定次郎家系図
- ⑯ 写ライオン歯磨株式会社工場用箋に書かれた
本郷定次郎一家略歴
- ⑰ 写育児暁星園本郷定次郎に関する資料（本郷
慰問與男遺品）より
- ⑱ 写佐藤一誠著忘れられたる暁星園表紙
- ⑲ 写本郷教会百年史
理想の灯をかかげて
- ⑳ 写本郷家に関して
本郷家のその後と家族の状況
- ㉑ 写山室軍平著
亡友本郷定次郎君（救世軍本管用原稿用紙）

完

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光夫

新米の季節になりました。今回は給食の食材について報告いたします。

本園では、子ども達のこれからの健康について考え、給食のメニューは、相馬管理栄養士、給食諮問委員会、職員給食委員会で検討しています。そして、給食の食材については、相馬管理栄養士と吟味しています。

主食については、一般的に、輸入小麦の残留農薬の問題(※1)が言われていることから、パンを給食ではできるだけ提供していません。また、同様の理由から、麺類は月1度にして、国産75%とカナダ産25%の小麦粉を使っています。

米については、今までの山形産米が高騰し、放射能の移行も少ないことが確認できましたので、この秋から栃木産こしひかり一般栽培米をメインにします。県米については、今までも、一部は栃木産の化学肥料を使わないアジア学院の有機栽培米とJAの特別栽培米とを使っていました。

そして、新たに卒園生保護者の深沢敏様のご紹介で、岩城里佳様の作られた化学肥料・農薬不使用米を、給食30日分提供していただけることになりました。

野菜については、難しいところですが、日持ちする根菜類から進めていきたいと考えます。

また、本園の残食が試算によると100kg/年であることから、それらも利用して、先ほどの深沢様の指導を受けながら、小林克良さん、大島京子さん、年中組の子ども達と担任が、糸状菌による空中の窒素を固定するという考えの「菌ちゃん」農法を試みているところです。まだ、土壌作りの段階ですが、収穫が楽しみです。

農家の皆さんから、子ども達の健康の為に手塩にかけた安全な農作物をいただき、私たちも、愛をもって、子ども達を手塩にかけて育てたいと思います。

注1 日本消費者連盟によると(2024.9)、以下の県では学校給食に国産小麦を使っている。

- ①地場産小麦一北海道・青森県・岩手県・滋賀県・山口県・佐賀県
- ②国産小麦一宮城県・千葉県・石川県・静岡県・長野県・島根県・熊本県

アジア学院たより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

副校長 大柳由紀子

8月は学外での見学研修が続きました。栃木県内の見学は日帰り、大田原市の古谷農産、真岡市のまんまる農園など5か所を訪問しました。後半には東北地方に1週間かけて出かけました。山形県置賜地方、庄内地方の2グループに分かれて5日間の研修を行い、その後合流して岩手県東和町の農場を見学しました。各地で有機農家やJA、食品加工をするグループや小さな組合を訪問、農村での活動戦略やリーダーシップ、有機農業運動やその哲学について学びを得ました。

9月に入れば学院の研修も後半戦です。インドネシアの卒業生による有機農産物マーケティングの授業、アメリカの支援団体職員からは申請書作成について学び、タイの有機農業研修団体の方からは在来種の大切さやその保存法について、オーストラリアのワールドビジョンの活動家からは地域の農民自身が管理を行う森林管理について学ぶなど、国外からの講師による講義が多くありました。もちろん国内からの講師も多く、尊厳、環境、自然農業などを学びました。また足尾銅山の見学研修もありました。

アジア学院では活動のすべてにおいて学生たちがリーダーシップをとることで、実践的な指導者研修が行われていますが、その集大成ともいえる最大のイベントが10月に行われる「収穫感謝の日(HTC)」です。8月から準備を始めましたが、9月にはミーティングや準備日が毎週のように入ります。夜や週末も使って用意を進め、パフォーマンスの練習もあちらこちらで行われました。直前には夜遅くまで準備や料理の下ごしらえをする姿が見られました。そして満を持しての当日。実に6年ぶりの2日間開催(10月12日、13日)は幸い好天に恵まれ、那須ワイズメンズクラブやYMCAを含めた地元団体からもご参加をいただき、地域の方々また遠くからもたくさんのゲストが訪れ、盛況のうちに終えることができました。学生たちも多く、困難や苦勞に直面しましたが、その中からの学びは大きかったと信じています。

研修内容(8月~10月):衛生管理と女性の健康、中間プレゼンテーション「私の一番の学び」、時間管理、日本の有機農業運動、ジェンダー論、助成申請の極意、環境と開発、尊厳ワークショップ、足尾銅山と田中正造、農村開発と協同組合、在来種の重要性と種の保存、小規模有機農家のためのマーケティング、熱帯における自然農業、環境と開発(水俣病)、農民による自然資源の管理、非暴力コミュニケーション、肉加工実習、バイオガスワークショップ、コーチング技術

見学研修:民間稲作研究所、陽だまり農場、古谷農産、まんまる農園、どんかめコンポストセンター、足尾銅山・太田市祈念鉅毒根絶碑・渡良瀬遊水地、山形県置賜地域(渡部務、JAおきたま、菅野芳秀、原田俊二、渡部美佐子、基督教独立学園、長井レインボープラン、しらたかノラの会、秋津みちこ、高島共生塾)、山形県庄内地域(鶴岡市役所産業課エコタウン室、庄内協同ファーム、JA庄内たがわ、小野寺紀允、庄内教会保育園、鶴岡市立農業経営者育成学校SEADS)、自然農園ウレシパモシリ
コミュニティワーク:稲刈り、サツマイモ収穫

YMCAだより

お休みしました

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前（リーダー名） 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCA
に入ったきっかけは？ 5. 思い出に残った活動とその理
由は？ 6. 今後の進路は？ 7. YMCAに一言

お休みします